

日本語文字変換

ユーザーマニュアル

Version 1.2.0

目次

Contents

第1章	はじめに
第2章	インストールと初期設定
第3章	基本機能
第4章	ルールの除外と無視リスト
第5章	検出結果の出力
第6章	原稿改善のワークフロー
第7章	設定とカスタマイズ
第8章	自分好みに育てる
第9章	変換ルール一覧
第10章	困ったときは
第11章	利用条件・免責事項

Chapter 1

はじめに

本書の目的と読み方、動作環境、ご利用にあたっての注意事項を説明します。

はじめに

第1章 ▶ 本書について

01 本書について

本書は、文章作成中の表記揺れや助詞の重複といった気になる箇所を、書きながら気づけるよう支援するツールの操作マニュアルです。インストール方法から基本操作、設定の調整、活用のコツまで順を追って説明します。

「とりあえず使いたい方」は、第2章のインストール方法と第3章の基本機能を読めば、今日から利用を始められます。設定を細かく調整したい方は第7章を、独自に育てたい方は第8章をご覧ください。

02 動作環境

本ツールはデスクトップ版Obsidianでの動作のみ確認しています。モバイル版（iOS、Android）は現時点で非対応です。すべての環境での動作を保証するものではありません。

03 ご利用にあたって

本ツールは表記揺れや助詞重複への気づきを支援する補助ツールです。最終的な採用や修正の判断は、利用者ご自身で行ってください。文体や文脈によっては、想定と異なる判定結果になる場合もあります。詳細な利用条件は第4章をご確認ください。

Chapter 2

インストールと初期設定

プラグインのインストールから初回起動までの手順を説明します。

インストールと初期設定

第2章 ▶ インストール手順

01 プラグインのインストール

ダウンロードしたフォルダを、Obsidianのプラグインフォルダに配置してください。配置後、Obsidianの設定画面からプラグインを有効化します。

手順

- Obsidianの「設定」を開き、「コミュニティプラグイン」のセクションへ進む
- 「制限モード」が有効の場合は無効に切り替える
- プラグインフォルダに、配布されたフォルダを配置する
- プラグイン一覧の更新ボタンを押し、「日本語文字変換」を有効化する



画面例：プラグインを有効化した状態

インストールと初期設定

第2章 ▶ 初回起動と有効化

02 初回起動

プラグインを有効にすると、ノートを開いたときに表記揺れの候補が自動でハイライト表示されます。初回はファイル全体を解析するため、少し時間がかかる場合があります。2回目以降は変更された文だけを再解析するため、すぐに反映されます。

03 有効/無効の切り替え

プラグインの動作は、画面左側のリボンアイコンからもオン/オフを切り替えられます。集中したいときは一時的にオフにして、後でまとめて確認するという使い方も可能です。

初回起動が遅く感じたとき

長文のファイルを開いた直後は、解析に少し時間を要します。これは初回のみで、以降の編集中はキャッシュが効くため快適に動作します。気になる場合は設定で一部のカテゴリをオフにすると、解析が軽くなります。

Chapter 3

基本機能

リアルタイム表記チェック、候補の確認と変換、アラート機能の使い方を説明します。

基本機能

第3章 ▶ リアルタイム表記チェック

01 書きながら気づく

文章を書いている最中に、表記揺れや助詞の重複といった気になる箇所が自動的にハイライト表示されます。書き終わってから探す必要がなく、その場で違和感に気づけます。

繰り返し指摘されるうちに、自分の表記の癖が自然と整っていきます。ツールに頼るというより、書きながら少しずつ磨かれていく感覚です。



画面例：リアルタイムでハイライトが表示される様子

基本機能

第3章 ▶ マウスでの変換

02 ポップアップから変換する

ハイライトされた箇所にマウスカーソルを乗せると、推奨される変換内容がポップアップで表示されます。クリックすると、その場で変換が実行されます。

- 038: 既に → すでに
- 039: 凄い → すごい
- 040: 凄い → すごい
- 041: 中々 → なかなか

画面例: 青波線にマウスを乗せると、変換候補のポップアップが表示される

操作の流れ

- ハイライトされた箇所にマウスカーソルを乗せる
- ポップアップに変換候補が表示される
- そのまま確定したい場合はクリックする
- 変換したくない場合はマウスを離せばポップアップが消える

基本機能

第3章 ▶ キーボードでの変換

03 キーボードで変換する

文字を書いている途中で先に変換したい場合は、カーソルをハイライトの範囲内に移動するとポップアップが表示されます。設定したキー（初期はTab）を押すと変換が確定します。マウスに持ち替える必要がなく、執筆のリズムを崩しません。

操作の流れ

- ハイライトされた範囲内にカーソルを移動する
- ポップアップに変換候補が表示される
- 変換したい場合はキーを押す（初期はTab）
- 変換したくない場合はそのまま入力続ける

変換キーは自由に変更できます

TabキーとF1～F12、修飾キーとの組み合わせなど、複数のキーを登録できます。設定画面からカスタマイズしてください。詳しくは第7章をご覧ください。

① カーソルを範囲内に置く

• 039: 例え → たとえ

• 中々 → なかなか さい

• 041: 中々 | → なかなか

② キー(初期はTab)で確定

キーボード操作

操作キー
マウス/トラックボール/キーボード/カーソル/拡張で操作(両方)を選択

ポップアップ表示位置
ハイライト範囲に対するポップアップの位置

変換実行キー
初期: Tab, F1~F12, 修飾キーとの合わせ技 (Enter等は結合の可設)

① カーソルを範囲内に移動するとポップアップが表示される ② キー(初期はTab)を押すと変換が確定する

画面例: ポップアップ → キー入力 で確定する流れ

基本機能

第3章 ▶ 注意喚起アラート

04 気になる癖に気づく

表記揺れだけでなく、文章の癖になりやすい3つのパターンを検知して波線で知らせます。気になる場合のみ修正すれば良く、強制的なものではありません。

検知される3つのパターン

種類	内容	例
同じ語尾の連続	隣接する文の語尾が一致	「～です。」 「～です。」
同じ接続詞	隣接する文で同じ接続詞	「しかし」 「しかし」
助詞の重複	同じ助詞が一文で繰り返し	「私の本の中の話」

アラートはオン/オフを切り替えられます

アラートが多すぎると感じる場合は、設定で個別にオフにできます。検出のしきい値も調整できます。詳しくは第7章をご覧ください。

Chapter 4

ルールの除外と無視リスト

青波線(変換候補)のうち、個別の単語を変換対象から除外する「無視リスト」機能の使い方を説明します。

ルールの除外と無視リスト

第4章 ▶ 無視リストへの登録と管理

01

業界用語や固有名詞など、変換させたくない単語を「無視リスト」に登録すれば、Vault全体で検知の対象から外せます。

01

右クリックで登録

青波線(変換候補)が表示されている単語の上で右クリック。

メニューから「この単語を無視リストに追加」を選択。

その瞬間から波線が消え、Vault内のすべてのノートで検知されなくなります。

02

設定画面で管理

設定 → コミュニティプラグイン → 日本語文字変換 の設定画面下部に「無視リスト」セクションがあります。

- ・ タグの「×」で個別削除
- ・ 「全削除」ボタンで一括リセット

気が変わればいつでも検知対象に戻せます。

設定画面の表示



登録済みの単語がタグで一覧表示されます。

タグの「×」で個別削除、
右下の「全削除」で一括リセット。

※ 無視リストの対象は青波線(変換候補)のみです。赤波線(文末連続・助詞重複の注意喚起)は対象外です。

Chapter 5

検出結果の出力

気づいた箇所をMarkdownファイルに書き出し、後から見返したり、AIに渡したりできます。

検出結果の出力

第5章 ▶ 全文出力

01 ノート全体の検出結果を出力する

現在開いているノートの違反箇所を、Markdownファイルとして書き出せます。後から見返したい場合や、AIに修正を依頼したい場合に役立ちます。

出力方法

- 右クリックメニューから「検出結果を出力」を選ぶ
- またはコマンドパレットから「検出結果を出力」を実行する
- 出力ファイルは、現在のノートと同じフォルダに作成される

02 選択範囲だけを出力する

長文の原稿を章ごとに修正したい場合は、選択範囲だけを出力できます。修正したい部分を選択した状態で「選択範囲の検出結果を出力」を実行してください。

選択範囲は同じファイルに上書きされます

全文出力と選択範囲出力は、同じファイルに書き出されます。出力モードが「上書き」の場合、最新の結果だけが残ります。履歴を残したい場合は、出力モードを「履歴保存」に変更してください。

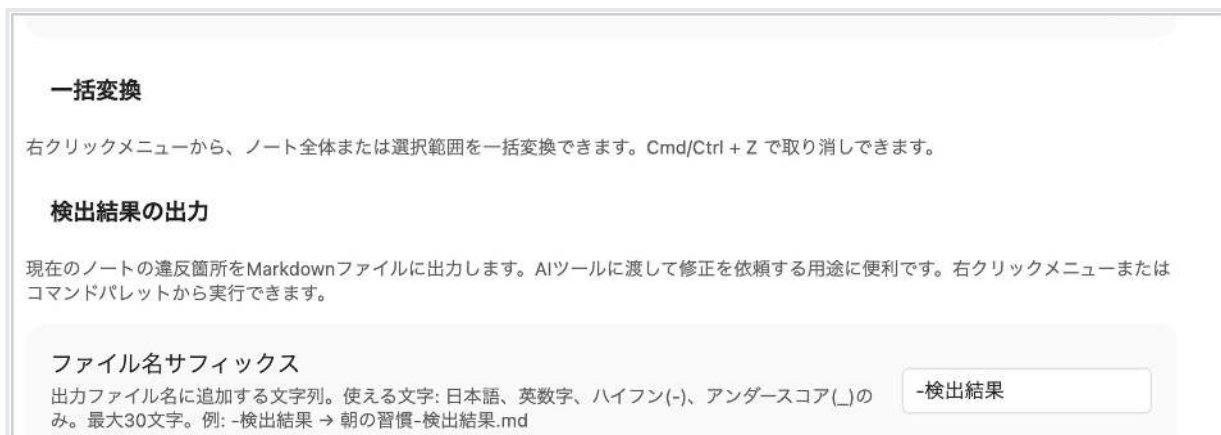
検出結果の出力

第5章 ▶ 出力モード

02 上書きモードと履歴保存モード

出力モードは2種類から選べます。設定画面で切り替えてください。

モード	動作	向いている使い方
上書き	毎回同じファイル名に保存	最新の結果だけあれば良い場合
履歴保存	タイムスタンプ付きで新規ファイル作成	修正履歴を段階的に残したい場合



画面例：設定画面の「出力モード」項目

検出結果の出力

第5章 ▶ 出力ファイルの中身

03 出力ファイルに含まれる情報

出力されるMarkdownファイルには、サマリー、修正ルール、原稿、AIへの指示例が含まれます。AIに渡せばすぐに修正依頼ができる構成になっています。

ファイルに含まれる項目

- サマリー：総文数、準拠率、違反のある文の数
- 修正ルール：設定に応じた修正方針の一覧
- 原稿：違反箇所が【】で囲まれた状態で記載
- AIへの指示例：そのままコピーしてAIに渡せる文面

検出結果サンプル-検出結果

プロパティ

- generated_by: japanese-converter-plugin
- generated_at: 2026-04-21T10:07:06
- source: 検出結果サンプル.md
- scope: full
- stats: {"total_sentences":122,"compliance_rate":84.4,"candidates":0,"tail_violations":0,"particle_violations":47,"violated_sentences":19}

+ プロパティを追加

検出結果(全文): 検出結果サンプル

サマリー

項目	値
総文数	122
準拠率	84.4%
違反のある文	19
変換候補(表記ゆれ)	0件
同じ語尾違反	0件
助詞重複違反	47件

修正ルール

違反の種類ごとに、以下の方針で修正してください。

- **助詞重複**: 1文内で同じ助詞が2回以上出現。別表現に置き換えて重複を解消する
- **文末連続**: 隣接する文と語尾(末尾2文字)が一致。片方の語尾を別の表現に変える
- **表記ゆれ**: 推奨表記への変換候補あり。指示通りに置換する(例: 【事→こと】なら「事」を「こと」に)

修正の目標は準拠率90%以上です。文意は保ってください。

画面例：出力されたMarkdownファイルの例

Chapter 6

原稿改善のワークフロー

検出結果をAIに渡し、繰り返し修正することで原稿の品質を高める手順を紹介します。

原稿改善のワークフロー

第6章 ▶ 検出結果の活用方法

01 出力ファイルを活用する3つの方法

出力された検出結果は、いくつかの使い方ができます。執筆スタイルや状況に合わせて選んでください。

使い方の例

- サマリーで全体の傾向を把握する
- 違反箇所を一覧で確認し、自分で修正する
- AIに渡して修正案を提案してもらう

02 AIを使う利点

違反箇所が多い場合や、文章全体のリズムを保ちながら修正したい場合は、AIに任せると効率的です。出力ファイルの末尾には、そのまま使える指示文の例も含まれています。

AIによる修正は確認が必要です

AIの提案が常に正しいとは限りません。提案内容を一度確認し、文意や文体が損なわれていないかを見てから採用してください。

原稿改善のワークフロー

第6章 ▶ AIに渡す手順

02 AIに修正を依頼する流れ

原稿と検出結果ファイルをAIに添付し、検出結果ファイルの末尾にある指示例をそのまま使うのが基本の流れです。

手順

- 原稿（元のノート）と検出結果ファイルの両方をAIに添付する
- 検出結果ファイル末尾の「AIへの指示例」をコピーして、AIに送る
- AIから返ってきた修正版を、新しいノートとして保存する
- 保存した修正版を再度プラグインで解析し、必要に応じて繰り返す

AIへの指示例

このファイルの内容をAI(Claude、ChatGPT等)に渡し、以下のように依頼してください。

このファイルに含まれる原稿の全文を修正してください。
□ で囲まれた箇所が違反です。修正ルールに従って直してください。
違反のない文はそのまま、見出し・段落構造も元のまま保ってください。
出力は修正版の全文のみ(前置き・後置き・解説は不要)。
再現率90%以上を目指しますが、完璧は不要です。

画面例：出力ファイル末尾の「AIへの指示例」

原稿改善のワークフロー

第6章 ▶ 繰り返し改善の実例

03 数回繰り返すことで品質が整っていく

AIによる修正は1回で完璧にはなりません。原稿と検出結果のサイクルを数回繰り返すことで、徐々に品質が整っていきます。以下は、ある原稿で実際に試した結果です。

サマリーの推移（参考例）

検出結果: 1回目

サマリー

項目	値
総文数	135
準拠率	29.6%
違反のある文	95
変換候補(表記ゆれ)	5件
同じ語尾違反	54件
助詞重複違反	198件

検出結果: 2回目

サマリー

項目	値
総文数	122
準拠率	51.6%
違反のある文	59
変換候補(表記ゆれ)	0件
同じ語尾違反	12件
助詞重複違反	151件

検出結果: 3回目

サマリー

項目	値
総文数	122
準拠率	66.4%
違反のある文	41
変換候補(表記ゆれ)	0件
同じ語尾違反	6件
助詞重複違反	103件

検出結果: 4回目

サマリー

項目	値
総文数	122
準拠率	75.4%
違反のある文	30
変換候補(表記ゆれ)	0件
同じ語尾違反	4件
助詞重複違反	68件

画面例：1回目から4回目までの準拠率の推移

結果は文体や原稿によって変わります

上記はあくまで一例です。原稿の文体、ジャンル、AIの種類によって結果は変わります。同じ原稿でも毎回同じ結果になるとは限りません。

Chapter 7

設定とカスタマイズ

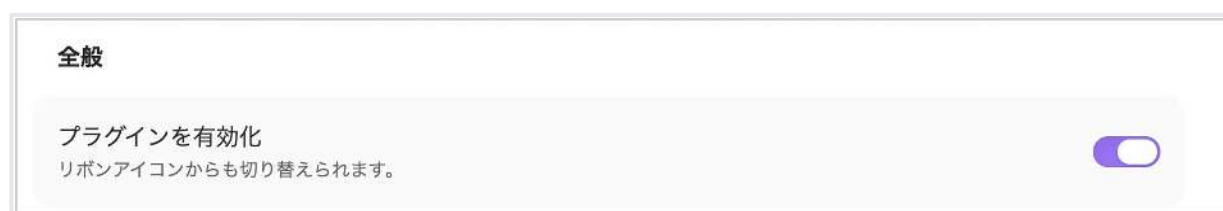
全般設定からキーボード操作、見た目、変換カテゴリ、アラートまで、各種設定の調整方法を説明します。

設定とカスタマイズ

第7章 ▶ 全般設定

01 プラグインの有効/無効

設定画面の「全般」セクションで、プラグインの有効/無効を切り替えられます。リボンアイコンからも同じ操作が可能です。



画面例：設定画面「全般」セクション

一時的に止めたいとき

集中して書きたいときや、ハイライトが邪魔に感じるときは、リボンアイコンから一時的にオフにできます。後でまとめて確認する使い方も便利です。

設定とカスタマイズ

第7章 ▶ キーボード操作

02 操作モード・ポップアップ位置・変換キー

「キーボード操作」セクションでは、3項目を調整できます。利用環境に合わせて設定してください。

キーボード操作

操作モード
マウス: ホバーで表示 / キーボード: カーソル位置で表示 / 両方: 両対応

ポップアップ表示位置
ハイライト箇所に対するポップアップの位置

変換実行キー
推奨: Tab、F1～F12、修飾キー組み合わせ (Enter等は競合の可能性)

画面例：設定画面「キーボード操作」セクション

操作モード

「マウス」「キーボード」「両方」から選択。両方を選んでおくと、状況に応じて使い分けが可能です。

ポップアップ表示位置

ハイライト箇所に対するポップアップの位置を「上」「下」から選択できます。

変換実行キー

Tab、F1～F12、修飾キーとの組み合わせなどが推奨です。Enterは他の機能と競合するため避けてください。

設定とカスタマイズ

第7章 ▶ 変換候補の見た目

03 ハイライトの色とスタイルを変更する

「変換候補の見た目」セクションでは、ハイライト表示の色やスタイルを自分好みに変更できます。下線の色は、変換候補・注意喚起・助詞重複でそれぞれ別の色を設定できます。



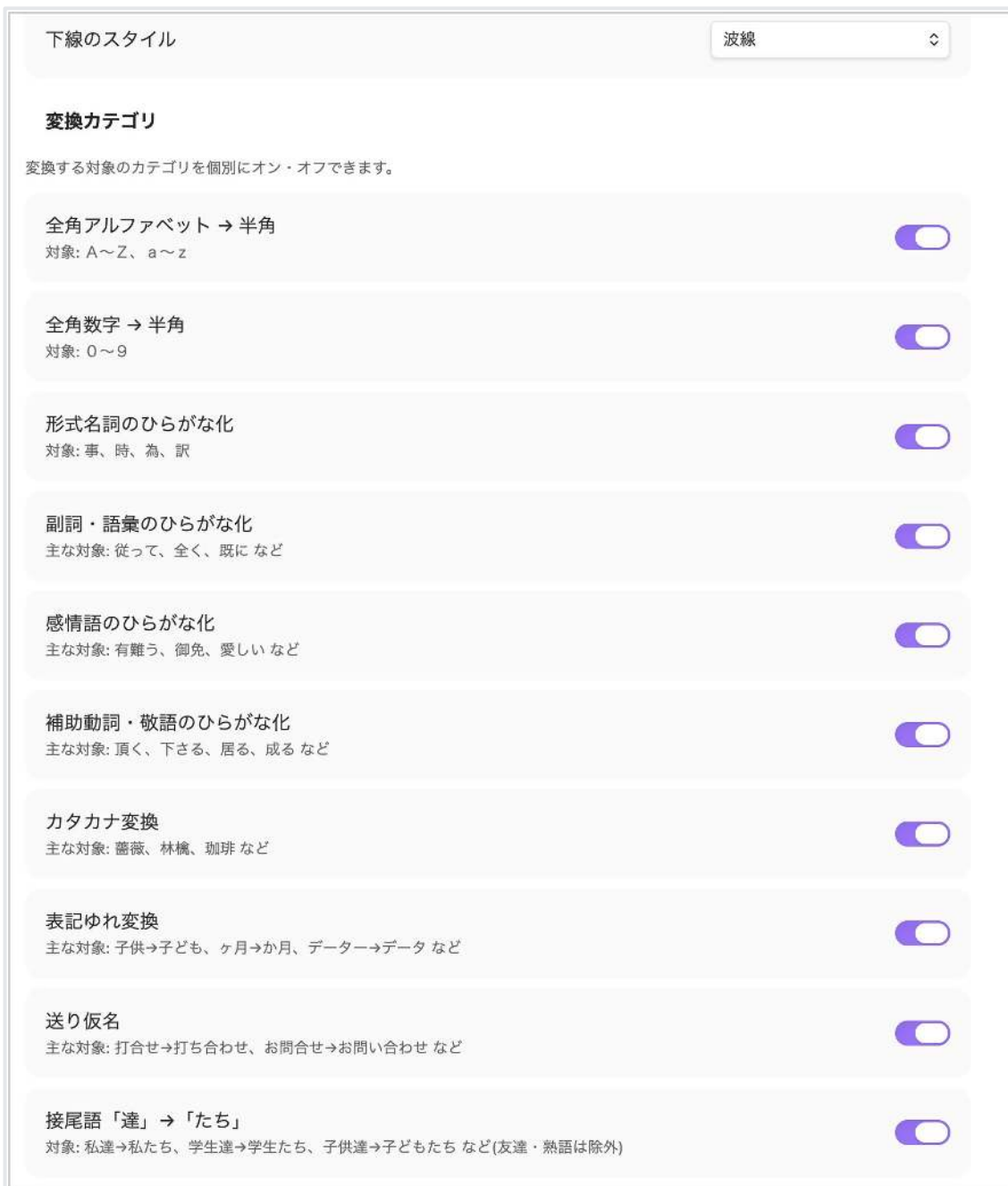
画面例：設定画面「変換候補の見た目」セクション

設定とカスタマイズ

第7章 ▶ 変換カテゴリ

04 カテゴリごとにオン/オフを切り替える

変換カテゴリは10種類あり、それぞれ独立してオン/オフを切り替えられます。不要なカテゴリをオフにすれば、ハイライトの数を減らせます。



下線のスタイル 波線

変換カテゴリ

変換する対象のカテゴリを個別にオン・オフできます。

- 全角アルファベット → 半角
対象: A~Z、a~z
- 全角数字 → 半角
対象: 0~9
- 形式名詞のひらがな化
対象: 事、時、為、訳
- 副詞・語彙のひらがな化
主な対象: 従って、全く、既に など
- 感情語のひらがな化
主な対象: 有難う、御免、愛しい など
- 補助動詞・敬語のひらがな化
主な対象: 頂く、下さる、居る、成る など
- カタカナ変換
主な対象: 薔薇、林檎、珈琲 など
- 表記ゆれ変換
主な対象: 子供→子ども、ヶ月→か月、データー→データ など
- 送り仮名
主な対象: 打合せ→打ち合わせ、お問合せ→お問い合わせ など
- 接尾語「達」→「たち」
対象: 私達→私たち、学生達→学生たち、子供達→子どもたち など(友達・熟語は除外)

画面例：設定画面「変換カテゴリ」セクション（一部）

設定とカスタマイズ

第7章 ▶ 注意喚起と助詞重複

05 アラートのしきい値を調整する

注意喚起や助詞重複の検出には、しきい値や対象の細かい調整ができます。検出が多すぎる場合や、特定のパターンだけ検出したい場合に役立ちます。



画面例：設定画面「注意喚起」セクション

調整できる項目

- 同じ語尾の文字数（1～10、初期2）
- 同じ接続詞のオン/オフ
- 助詞重複の許容回数（2～5、初期2）
- 助詞ごとの個別オン/オフ（の・に・が・を・で・は）

設定とカスタマイズ

第7章 ▶ 助詞重複の調整

06 対象の助詞を個別に切り替える

助詞は6種類が対象です。文体によっては特定の助詞が頻出することもあるため、不要な助詞だけオフにする運用が便利です。

1文の中で同じ助詞が繰り返し出現したら、オレンジ波線で警告します。

助詞重複を検出 対象: の、に、が、を、で、は	<input checked="" type="checkbox"/>
許容回数 1文にこの回数以上同じ助詞が出たら警告(2~5、デフォルト2)	<input type="range" value="2"/>
助詞「の」をチェック	<input checked="" type="checkbox"/>
助詞「に」をチェック	<input checked="" type="checkbox"/>
助詞「が」をチェック	<input checked="" type="checkbox"/>
助詞「を」をチェック	<input checked="" type="checkbox"/>
助詞「で」をチェック	<input checked="" type="checkbox"/>
助詞「は」をチェック	<input checked="" type="checkbox"/>
一括変換	

画面例：設定画面「助詞重複」セクション

Chapter 8

自分好みに育てる

AIを使って、本ツールを自分の執筆スタイルに合わせて拡張・調整する方法を紹介します。

自分好みに育てる

第8章 ▶ パッケージの中身と差し替え手順

01 パッケージの中身とAI改造の流れ

コードを書けなくても大丈夫です。ダウンロードしたファイル一式をAIに渡し、日本語で要望を伝えれば、AIが修正からビルドまで対応します。完成したファイルをプラグインフォルダに上書きするだけで反映されます。

パッケージの中身

japanese-converter-v1.2.0.zip

- └ customize/
 - AI改造用ソース一式
- └ japanese-converter/
 - Obsidian に置く本体
- └ LICENSE.txt
- └ README.md

AIに改造を頼む5つの手順

Step 1

zip全体を解凍し、AIにフォルダごとアップロード

Step 2

「〇〇を△△に変更してほしい」と日本語で依頼

Step 3

AIにビルドまでお願いし、新しいjapanese-converter フォルダを受け取る

Step 4

Vault の .obsidian/plugins/japanese-converter/ に上書き

Step 5

Obsidian を再読み込みして反映を確認

※ customize/ 内のソースだけをAIに渡して、自分でビルドする上級者向けの方法もあります。

自分好みに育てる

第8章 ▶ 改造の具体例

02 依頼の具体例

AIに依頼するときは、具体的な要望を伝えるのがコツです。以下は依頼文の例です。そのまま参考にしてください。

ルール追加の依頼例

「下さい」を「ください」に変換するルールを、補助動詞のひらがな化カテゴリに追加してください。ただし「お願い下さい」のような複合表現でも正しく動作するようにお願いします。

見た目を変える依頼例

ハイライトの下線を、波線ではなく直線に変えたいです。また、注意喚起の色をオレンジから紫に変更してください。

改造の前に元のフォルダを保管

改造を試す前に、元のフォルダのコピーを別の場所に保管してください。意図と違う動作になった場合に、すぐ元に戻せます。

自分好みに育てる

第8章 ▶ AIによるサポート

03 サポートはAIにも相談できる

本ツールの使い方や設定方法に迷ったときは、本マニュアルとソースコードをAIに渡し、自然な言葉で質問できます。AIが該当箇所を読み取り、回答を返してくれます。

相談の例

- 「特定のカテゴリだけオフにしたい」と聞けば、設定画面の該当箇所を教えてもらえる
- 「動作が遅く感じる」と相談すれば、軽量化の方法を提案してもらえる
- 「想定外の判定が出る」と伝えれば、原因と対処法を教えてもらえる

04 AIで育てる執筆環境

AIを使えば、本ツールは買って終わりではなく、自分の執筆スタイルに合わせて少しずつ育てていける道具になります。最初は標準のまま使い、慣れてきたら自分用にカスタマイズする使い方が無理なく始められます。

AIの提案も最終確認は人間で

AIの提案は便利ですが、必ず動作確認をしてから採用してください。意図と違う変更が含まれている可能性もあります。

Chapter 9

変換ルール一覧

本ツールが検出する変換ルールを、カテゴリ別に例と共に掲載します。

変換ルール一覧

第9章 ▶ リアルタイム検知の仕組み

01 リアルタイム性を最優先した設計

本ツールは、書きながら瞬時に検知するリアルタイム性を最優先に設計しました。形態素解析(辞書方式)ではなく正規表現ベースの軽量実装を選び、起動の速さと書きながらの遅延ゼロを実現しています。さらに、ルールがすべてテキストファイルで管理されているため、AIに依頼してご自身でカスタマイズできる基盤にもなっています。

02 書きながら自分を磨く、学べる環境

リアルタイムで指摘されることで、後戻りの修正が減ります。さらに、同じ違和感に何度も気づくうちに、自分の文章の癖が自然と整っていきます。本ツールは「完璧な校正結果」を提供するのではなく、書き手が自分自身を磨く学びの環境を提供します。

03 検知精度と補助ツールという位置づけ

本ツールの検知精度は100%ではありません。軽量実装のトレードオフとして、文体や文脈によって想定外の判定になる場合があります。サーバー解析型の校正サービスを完全に置き換えるものではなく、書きながらの気づきを増やす補助ツールという位置づけです。違和感がある場合は、ポップアップを無視するか、設定で該当カテゴリをオフにできます。

表の見方

次ページ以降で、カテゴリごとの変換例を2段組みの表で示します。「変換前」が検知対象、「変換後」が推奨される表記です。すべての表現で常に同じ変換になるとは限らず、文脈による判定もあることをご承知おきください。

変換ルール一覧

第9章 ▶ 全角アルファベット → 半角

全角アルファベット → 半角(1ルール・全52文字対応)

文章中の全角アルファベットを半角に変換します。英字が混在する日本語文では、通常半角が読みやすくなります。

変換前	変換後
A B C	ABC

変換ルール一覧

第9章 ▶ 全角数字 → 半角

全角数字 → 半角(1ルール・全10文字対応)

文章中の全角数字を半角に変換します。数値は半角で表記するのが一般的です。

変換前	変換後
2 0 2 6	2026

変換ルール一覧

第9章 ▶ 形式名詞のひらがな化

形式名詞のひらがな化(18ルール)

実質的な意味が薄れ、形式的に使われる名詞をひらがなに変換します。読みやすさが向上します。

変換前	変換後
する事を始める	することを始める
る時	るとき
ある時	あるとき
この時	このとき
その時	そのとき
あの時	あのとき
どの時	どのとき
る為	るため
為	ため

変換前	変換後
る訳	るわけ
な様に	なように
な様な	なような
な様だ	なようだ
る程	るほど
3人程	3人ほど
る物	るもの
所	ところ
筈	はず

変換ルール一覧

第9章 ▶ 副詞・語彙のひらがな化 (1/2)

副詞・語彙のひらがな化(55ルール)

硬い印象を与える副詞や語彙をひらがなにします。柔らかく読みやすい文章になります。

変換前	変換後
従って	したがって
及び	および
並びに	ならびに
且つ	かつ
又は	または
所謂	いわゆる
所詮	しょせん
凡そ	およそ
概ね	おおむね
寧ろ	むしろ
敢えて	あえて
最も	もっとも
全て	すべて
殆ど	ほとんど

変換前	変換後
流石に	さすがに
予め	あらかじめ
何故	なぜ
既に	すでに
例え	たとえ
凄い	すごい
中々	なかなか
多分	たぶん
是非	ぜひ
全く	まったく
漸く	ようやく
丁度	ちょうど
何となく	なんとなく
折角	せっかく

変換ルール一覧

第9章 ▶ 副詞・語彙のひらがな化 (2/2)

副詞・語彙のひらがな化 (続き)

変換前	変換後
何れ	いずれ
因みに	ちなみに
生憎	あいにく
成る程	なるほど
度々	たびたび
時々	ときどき
色々な	いろいろな
色々	いろいろ
何とか	なんとか
未だに	いまだに
未だ	まだ
何時	いつ
御座	ござ
少しずつ	少しずつ

変換前	変換後
素晴らしい	すばらしい
宜し	よろし
具沢山	具たくさん
盛り沢山	盛りたくさん
盛沢山	盛たくさん
沢山	たくさん
見付	見つ
気付	気づ
殊に	ことに
直ちに	ただちに
先ず	まず
暫く	しばらく
溢れ	あふれ

変換ルール一覧

第9章 ▶ 感情語のひらがな化

感情語のひらがな化(9ルール)

感情を表す言葉をひらがなにします。親しみやすい表現になります。

変換前	変換後
有り難う	ありがとう
有難う	ありがとう
有り難い	ありがたい
有難い	ありがたい
御免	ごめん

変換前	変換後
御礼	お礼
哀しい	悲しい
儂い	はかない
嬉しい	うれしい

変換ルール一覧

第9章 ▶ 補助動詞・敬語のひらがな化

補助動詞・敬語のひらがな化(84ルール)

補助動詞や敬語表現をひらがなにします。文章の流れが自然になります。※印は、誤変換防止のため変換せず元のままにする例外ルールです。

変換前	変換後	変換前	変換後
て見る	てみる	な成る	ななる
な居る	ないる	に成る	になる
な居た	ないた	に成っ	になっ
居た	いた	に成り	になり
な居な	ないな	と成る	となる
居な	いな	と成っ	となっ
な居ま	ないま	と成り	となり
居ま	いま	く成っ	くなっ
な居り	ないり	く成り	くなり
居り	いり	ば成ら	ばなら
居る	いる	に成ら	になら
有る	ある	な成ら	ななら
有っ	あっ	出来	でき
有って	あって	て仕舞	てしま
有れ	あれ	て行く	ていく
有り	あり	んで行く	んでいく
な無い	なない	ないで行く	ないでいく
事無い	ことない	うまく行	うまくい
無けれ	なけれ	て来る	てくる
無い	ない	て来た	てきた
無かつ	なかつ	て来て	てきて

変換ルール一覧

第9章 ▶ 補助動詞・敬語のひらがな化(続き)

補助動詞・敬語のひらがな化(続き)

補助動詞や敬語表現をひらがなにします。文章の流れが自然になります。※印は、誤変換防止のため変換せず元のままにする例外ルールです。

変換前	変換後	変換前	変換後
て置く	ておく	り頂き	りいただき
て置い	ておい	を頂く	をいただく
て置き	ておき	を頂い	をいただい
て置か	ておか	を頂け	をいただけ
て置け	ておけ	を頂き	をいただき
て置こ	ておこ	頂く	いただく
て頂く	ていただく	頂い	いただい
て頂い	ていただい	頂け	いただけ
て頂け	ていただけ	頂き	いただき
て頂き	ていただき	貰え	もらえ
(頂く	(いただく	貰っ	もらっ
(頂い	(いただい	貰う	もらう
(頂け	(いただけ	を下さい	をください
(頂き	(いただき	記入下さい	記入ください
カード頂く	カードいただく	ち下さい	ちください
カード頂い	カードいただい	下さる	くださる
カード頂け	カードいただけ	下さり	くださり
カード頂き	カードいただき	下さっ	くださっ
り頂く	りいただく	記入致し	記入いたし
り頂い	りいただい	致す	いたす
り頂け	りいただけ	致さ	いたさ

変換ルール一覧

第9章 ▶ 難読漢字 → カタカナ

難読漢字 → カタカナ(27ルール)

読みにくい漢字をカタカナに変換します。動植物名や日用品名などが対象です。

変換前	変換後
薔薇	バラ
檸檬	レモン
林檎	リンゴ
蜜柑	ミカン
山葵	ワサビ
煙草	タバコ
珈琲	コーヒー
苺	イチゴ
葡萄	ブドウ
西瓜	スイカ
南瓜	カボチャ
胡瓜	キュウリ
茄子	ナス
大蒜	ニンニク

変換前	変換後
生姜	ショウガ
胡椒	コショウ
蜂蜜	ハチミツ
海老	エビ
鴉	カラス
梟	フクロウ
蜘蛛	クモ
蝙蝠	コウモリ
雫	シズク
鋏	ハサミ
箆筒	タンス
暖簾	ノレン
薬缶	ヤカン

変換ルール一覧

第9章 ▶ 表記ゆれの統一

表記ゆれの統一(23ルール)

複数の書き方がある言葉を、推奨される表記に統一します。※印は、誤変換防止のため変換せず元のままにする例外ルールです。

変換前	変換後
ウェブサイト	Webサイト
ウエブサイト	Webサイト
WEBサイト	Webサイト
WE Bサイト	Webサイト
We bサイト	Webサイト
w e bサイト	Webサイト
無くして	なくして
無くなって	なくなって
て過ぎ	てすぎ
遅過ぎ	遅すぎ
子供	子ども
ヶ月	か月

変換前	変換後
ヵ月	か月
コミュニケーション	コミュニケーション
シュミレーション	シミュレーション
オートメション	オートメーション
ヴォリューム	ボリューム
ヴァイオリン	バイオリン
ソフトウェア	ソフトウェア
ハードウェア	ハードウェア
ファイル	ファイル
インタフェース	インターフェース
な内に	なうちに

変換ルール一覧

第9章 ▶ 送り仮名 (1/2)

送り仮名(55ルール)

送り仮名を省略した表記を、標準的な送り仮名付きの表記にします。

変換前	変換後
お問合せ	お問い合わせ
問合せ	問い合わせ
お申込み	お申し込み
申込み	申し込み
お取扱い	お取り扱い
取扱い	取り扱い
お振込み	お振り込み
振込み	振り込み
お見積り	お見積もり
見積り	見積もり
お取組み	お取り組み
取組み	取り組み
打合せ	打ち合わせ
受付け	受け付け

変換前	変換後
引渡し	引き渡し
差引き	差し引き
繰越し	繰り越し
貸付け	貸し付け
売上げ	売り上げ
買上げ	買い上げ
立替え	立て替え
積立て	積み立て
引落し	引き落とし
払込み	払い込み
書換え	書き換え
差替え	差し替え
届出	届け出
締切り	締め切り

変換ルール一覧

第9章 ▶ 送り仮名 (2/2)

送り仮名 (続き)

変換前	変換後
締切	締め切り
買物	買い物
受入れ	受け入れ
受取り	受け取り
引上げ	引き上げ
引下げ	引き下げ
引継ぎ	引き継ぎ
引換え	引き換え
引越し	引っ越し
引出し	引き出し
取消し	取り消し
取付け	取り付け
組合せ	組み合わせ
組立て	組み立て

変換前	変換後
切替え	切り替え
申入れ	申し入れ
払戻し	払い戻し
乗換え	乗り換え
話合い	話し合い
呼出し	呼び出し
持込み	持ち込み
持帰り	持ち帰り
立上げ	立ち上げ
書込み	書き込み
読込み	読み込み
飛込み	飛び込み
振返り	振り返り

変換ルール一覧

第9章 ▶ 接尾語「達」→「たち」

接尾語「達」→「たち」(43ルール)

接尾語として使われる「達」をひらがなの「たち」にします。人や動物を指すときの表現が柔らかくなります。

変換前	変換後
子供達	子どもたち
子ども達	子どもたち
私達	私たち
僕達	僕たち
俺達	俺たち
君達	君たち
彼達	彼たち
彼女達	彼女たち
あなた達	あなたたち
わたし達	わたしたち
ぼく達	ぼくたち
おれ達	おれたち
きみ達	きみたち
お前達	お前たち
わたくし達	わたくしたち
友達	友だち
学生達	学生たち
生徒達	生徒たち
選手達	選手たち
大人達	大人たち
少年達	少年たち
少女達	少女たち

変換前	変換後
男達	男たち
女達	女たち
者達	者たち
人達	人たち
仲間達	仲間たち
家族達	家族たち
兄弟達	兄弟たち
姉妹達	姉妹たち
親達	親たち
息子達	息子たち
娘達	娘たち
先輩達	先輩たち
後輩達	後輩たち
同僚達	同僚たち
先生達	先生たち
住人達	住人たち
弟子達	弟子たち
師匠達	師匠たち
客達	客たち
猫達	猫たち
犬達	犬たち

Chapter 10

困ったときは

よくある質問とトラブルが起きたときの対処方法をまとめます。

困ったときは

第10章 ▶ よくある質問

01 よくある質問

Q ハイライトが表示されません

A 設定画面の「全般」で、プラグインが有効になっているか確認してください。また、「変換候補の見た目」の「ハイライトを表示」がオンになっているかご確認ください。

Q 特定のカテゴリだけオフにできますか

A はい。設定画面の「変換カテゴリ」で、10種類のカテゴリをそれぞれ個別に切り替えられます。また、助詞重複の対象も助詞ごとに設定できます。

Q 変換結果を元に戻したい

A Cmd/Ctrl + Z で元に戻せます。ひとつ前の状態まで戻る操作です。クリックで変換した直後にも使えます。

Q 初回の動作が遅く感じます

A 長文ファイルを初めて開いたときは、全文の解析が行われるため少し時間がかかります。2回目以降は変更された文だけを解析するため、快適に動作します。

困ったときは

第10章 ▶ トラブルシューティング

02 うまく動かないときの確認ポイント

期待通りに動かないと感じたときは、以下の順に確認してください。多くの問題はこれで解決します。

確認手順

- プラグインが有効になっているか確認する
- 設定画面でハイライト表示がオンになっているか見る
- Obsidianを一度再起動する
- プラグインを無効にして、再度有効にする
- それでも解決しないときは、設定を初期状態に戻す

03 想定外の判定が出るとき

文体や文脈によっては、期待と異なる箇所がハイライトされる場合があります。違和感が気になる場合は、次の方法で対処できます。

対処方法

- 該当のカテゴリを設定で一時的にオフにする
- ポップアップは無視して、元の表記のまま書き続ける
- AIに相談して、自分用のルールを作成する（第8章参照）

AIへのサポート相談も可能

解決しないときは、本マニュアルとソースコードをAIに渡して相談できます。自然な日本語で質問すれば、該当箇所や対処法を案内してもらえます。

Chapter 11

利用条件・免責事項

本ツールをご利用いただく際の条件と免責事項をまとめます。

利用条件・免責事項

第11章 ▶ 利用条件

01 改変について

本ツールのソースコードは、購入された方ご自身が使用する範囲において、自由に改変していただけます。AIを活用した自分用のカスタマイズも歓迎です。

ただし、改変した結果についての責任は、改変を行った方が負うものとします。改変前に元のフォルダをコピーし、いつでも元に戻せる状態にしておくことをおすすめします。

02 再配布について

本ツール（改変の有無を問わず）の再配布は禁止します。第三者への譲渡や共有はお控えください。ご友人やご家族でのご利用を希望される方は、それぞれご購入いただくようお願いいたします。

03 商用利用について

ご自身の執筆業務やお仕事の範囲内でのご利用は問題ありません。ただし、本ツールそのものを商品として転売することはできません。

利用条件・免責事項

第11章 ▶ 免責事項

02 動作保証について

本ツールはデスクトップ版Obsidianでの動作のみ確認しています。モバイル版（iOS、Android）は現時点で非対応です。すべての環境での動作を保証するものではありません。

05 判定結果について

本ツールは表記揺れや助詞重複への気づきを支援する補助ツールです。検出結果は必ずしも正解ではなく、文体や文脈によって異なる判定になる場合があります。最終的な採用や修正の判断は、利用者ご自身で行ってください。

06 損害の責任について

本ツールのご利用により発生したいかなる損害についても、作者は責任を負いかねます。重要な原稿で使用される際は、事前にバックアップを取ることをおすすめします。

07 今後の変更について

本ツールは今後のアップデートにより、機能や仕様が変更される場合があります。本マニュアルの内容と実際の動作が異なる場合は、最新版のマニュアルをご参照ください。

ご利用ありがとうございます

本ツールが、あなたの執筆活動に少しでも役立てば幸いです。AIと共に、自分好みに育てていってください。